



交差するそれぞれの想い

オ

ーボエ担当の三年生中嶋真由子さんは、コンクールで演奏する自由曲の鍵を握る人物の一人。自由曲の演奏の出だしに、オーボエのソロ(単独)演奏があるのだ。

「プレッシャーです!」

ソロ演奏について聞くと開口一番そう答えた中嶋さんは言葉を続ける。「ただでさえソロ演奏は注目を浴びて緊張するのに、このソロ部分は息が長くて、とても難しいんです。曲の出だしなので、私のソロの出来次第で曲全体のイ



メージが決まってしまうんです!」

一人前になるまで3年ばかりかかると言われる楽器のオーボエを、一年生から始め、今年三年生となった中嶋さん。「最後のコンクールなので、悔いのないようにしたいです」と意気込む。3年間の練習の成果を、中学校最後のコンクールの舞台で見せる。

二年生の深野彩寧さんは、パーカッション(打楽器)担当。一年生の頃はホルン担当だったが、二年生から配置転換となった。自由曲ではティンパニという大型の太鼓を使い、雷鳴の音を再現するなど非常に存在感のある立ち位置となる。「このコンクールで三年生の先輩たちは最後。不安はありますが、先輩たちのためにも金賞を目指してがんばります!」

一方、4月に入部し、わずか4カ月弱でコンクールに臨むことになる一年生。

その中の一人、安永尚矢くんは、サクソフォン担当。課題曲では、一年生ながらソロ演奏を行う。安永くんはコンクールに向けて「楽しみだけど、よくわからない」と正直な心情を漏らす。「兄ちゃん(三年生の安永悠人くん)も取ったことのない金賞を、みんなで取りたいので、練習をがんばります」と笑顔で話してくれた。

Interview

親としてサポートしつつ  
子どもたちから感動をもらう

保護者会は、子どもたちの送迎やコンクール前の差し入れなどを通して、子どもたちをサポートしています。

子どもたちが毎日遅くまで、そして土日も練習で汗を流している姿を見ると、親としては見ている辛いこともあります。私たちはサポートに徹して、子どもたちがより良く吹奏楽に専念できるようにしたいという思いで活動しています。

私自身、音楽に特別な関心があった訳ではありませんが、子どもたちからは多くの感動をもらっています。コンクールなどでやり遂げた子どもたちの姿を見ると、サポートできて良かったと思いますね。



桂川中学校吹奏楽部 保護者会  
坂本 豊子 会長

部員たちの想いが交差する中、当日は指揮者として舞台上に上がる藤井先生。コンクール前日の練習最中、部員たちにこんな話を始めた。

「先生、周りの関係者からよく言われます。『桂川中学校吹奏楽部は、演奏の個人レベルは高いけど、少人数なのが残念ですな』って。その度に先生は悔しく思っています。残念なんかじゃありません。少人数だからこそ一丸になったときの力はとても強いはずです。みんなも『少ないからこそやってやるぞ!』という気持ちを内に秘めて、桂中吹奏楽部の演奏を見せつけてやってください!」

